第11回アジア大会

韓国がアベックで金メダルを獲得 日本男子は銀メダル、女子は第5位

第11回アジア大会は、9月26日から10月5日まで中国・北京で開催された。

今回の大会は、8月にイラクのクウェート侵攻に伴い、イラクを大会からしめ出して開催されるという政治の影を落とした大会となったが、ハンドボール競技は、男女各6か国が参加してリーグ戦で行なわれた。

男子では、日本は初戦でライバル韓国と対戦、1点を争う激しい試合の末惜しくも敗れ、第2位・銀メダルに終った。金メダルは5戦全勝の韓国、銅メダルはサウジアラビアが獲得した。

一方の女子は、やはり韓国が圧倒的な強さを見せて金メダルを獲得した。日本は今一つ調子に乗れず苦しい戦いをつづけ、最終戦で銅メダルを賭けタイペイと対戦した。この試合22—22でいったん試合終了かと思われたが、大会本部が延長戦を指示、延長で日本が27—25で制し、日本が銅メダル獲得かと思わせたが、翌日アジアハンドボール連盟（AHF）はこの延長戦を無効とし、引き分け試合とした。この結果、中国が銀メダル、タイペイが銅メダル、日本は第5位となった。

日本ハンドボール協会は、後日このAHFの決定を不服として抗議書を送っている。

大会成績

男子

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
中国	34	19—8	15—7	15	北朝鮮
サウジアラビア	29	16—12	13—11	23	アラブ首長国連邦
韓国	**26**	**10—15**	**16—12**	**25**	**日本**
日本	**18**	**9—9**	**9—7**	**16**	**サウジアラビア**
中国	33	17—10	16—9	19	アラブ首長国連邦
韓国	38	18—17	20—10	27	北朝鮮
北朝鮮	37	20—15	17—11	26	アラブ首長国連邦
韓国	34	17—12	17—13	25	サウジアラビア
日本	**29**	**13—9**	**16—12**	**21**	**中国**
韓国	32	17—11	15—10	21	アラブ首長国連邦
日本	**33**	**17—9**	**16—8**	**17**	**北朝鮮**
サウジアラビア	19	12—6	7—12	18	中国
サウジアラビア	27	12—15	15—15	27	北朝鮮

※延長戦が行なわれ、32—31でサウジアラビアが勝ったが、後に延長は無効となる。

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
韓国	31	17—14	14—12	26	中国
日本	**33**	**16—4**	**17—3**	**7**	**アラブ首長国連邦**

〔順位〕①韓国②日本③サウジアラビア④中国⑤北朝鮮⑥アラブ首長国連邦

女子

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
中国	37	22—2	15—1	3	香港
タイペイ	25	12—10	13—13	23	北朝鮮
韓国	**32**	**17—12**	**15—11**	**23**	**日本**
北朝鮮	**26**	**16—13**	**10—11**	**24**	**日本**
韓国	40	19—10	21—12	22	香港
中国	30	16—13	14—6	19	タイペイ
タイペイ	37	18—13	19—5	18	香港
中国	**27**	**12—10**	**15—11**	**21**	**日本**
韓国	40	21—19	19—10	29	北朝鮮
韓国	31	15—11	16—7	18	タイペイ
日本	**35**	**15—2**	**20—3**	**5**	**香港**
中国	26	8—13	18—11	24	北朝鮮
北朝鮮	41	21—8	20—6	14	香港
日本	**22**	**11—10**	**11—12**	**22**	**タイペイ**

※延長戦が行なわれ、27—25で勝ったが、後に延長は無効となる。

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
韓国	36	18—11	18—8	19	中国

〔順位〕①韓国②中国③タイペイ④北朝鮮⑤日本⑥香港

アジア大会を振り返って

総監督・市原則之

第11回アジア競技大会は、全競技に於いて威信をかけた中国の圧倒的強さを誇示した大会となったが、運営面では種々の無理が生じて全体的に沢山の問題を残して終了した大会でもあった。

中でもハンドボール競技に於ける女子の順位決定方法については、国際慣行から離脱した、言はば"チャイナルール"の適用を主張するという誠に不可解な方法で混乱を招き、それを抗議するも警官隊の動員により阻止するという未だかって例のない事態を引き起こしてしまった。この煽を食った日本女子は、国際ルールなら3位であるべきところ5位という不本意な順位に甘んじ、この裁定を不服とした日本協会は現在アジア連盟と国際連盟に抗議の手続き中である。

そもそも大会当初より、順位決定方法が不明確であったため、再三にわたり大会本部に「25パーセントルールの適用」と「延長戦の有無」について確認し、幾度も「25パーセントルールの適用」と「延長なし」の回答を得ていた。したがって、日本チームのスタッフは当大会の順位決定方法は、国際慣行の予選リーグの順位決定方法の採用と理解し、台湾戦を迎えるに当り、3位を確保するには5点差以上での勝利を目標にしたミーティングを行なって試合に挑んだ。ところが試合が引き分けとなって終了し、選手全員が肩を落としてロッカールームに引き上げると、驚くことに大会本部員とレフ

アジア大会選手団

総監督
市原　則之
（湧永製薬）

男子監督
津川　　昭
（湧永製薬）

女子監督
緒方　嗣雄
（大和銀行）

男子コーチ
蒲生　晴明
（大同特殊鋼）

男子コーチ
喜井　美雄
（本田技研）

女子コーチ
水上　　一
（筑波大）

ドクター
敦賀　一郎
（浜脇病院）

男子

ＧＫ①
矢内　　浩
（大崎電気）
189cm、85kg、30才

ＧＫ⑫
橋本　行弘
（本田技研）
185cm、80kg、25才

ＧＫ⑯
秋吉　哲男
（大同特殊鋼）
190cm、85kg、25才

ＦＰ②
田口　隆
（本田技研）
182cm、78kg、29才

ＦＰ③
玉村　健次
（湧永製薬）
182cm、77kg、29才

ＦＰ④
宮下　和広
（大崎電気）
187cm、85kg、29才

ＦＰ⑤
武田　英雄
（大崎電気）
177cm、73kg、27才

ＦＰ⑥
酒巻　清治
（湧永製薬）
180cm、78kg、28才

ＦＰ⑦
河原　隆雅
（湧永製薬）
180cm、76kg、26才

ェリーが延長戦を行なうよう要請してきた。何のことやらと疑問を抱きながら再度勝利に執念を燃して延長戦を勝ち抜いた。試合後、周囲の日本3位という声に、初めてこの試合は決勝リーグとなるため「25パーセントルールのカット」と同時に「延長戦の適用」と解釈し、日本の3位を確信して何とか面目が保てたとスタッフ全員胸をなぜ下ろした。また、翌朝の中国のテレビ、ラジオでも日本女子のブロンズ（銅）メダル獲得のニュースが流れたことも一層3位の確信を強めた。

しかしながら、表彰式当日北朝鮮3位というニュースが飛び込んできたため、すぐに大会本部に駆けつけると、すでに昨日の延長戦を無効としてその部分の一切の記録も抹消されていた。当然日本チームは抗議するも、その執拗さに警官隊導入によって阻止し、ついに抗議断念しなければならない状態となった。

結局二転三転で台湾3位、日本5位という誠に不可解な結果となって、しかもそれらの決定を関係国に一切伝達されないという前代未聞の事態となり、今後に大きな禍根を残す大変あと味の悪い大会にしてしまった。

アジア大会での女子の不成績の責任を転嫁するつもりは毛頭なく、本来日本が北朝鮮に難なく勝っておればこういう事態を引き起こす結果にはならなかったと悔いと大きな反省をしているが、アジアの各国のレベルアップが予想以上に進んでいることも否めない事実である。したがって、今後はこうしたルールの解釈の問題や、また運営の方法等について、事前に十分な打ち合わせや情報収集が必要となってくる。それには今まで乏しかったＡＨＦやＩＨＦとの関係強化を図り、十分な情報収集が出来るような政治的影響力を有しなければならない。これは強化活動に不可欠な要件であり、是非共早期に実現させなくてはならない。

いずれにしろ、アジア大会は、バルセロナ出場への通過点である。男女各々の監督は沢山の反省と努力目標を残して新たな強化策への挑戦していくことと思う。男子が限りなく金に近い「銀メダル」を獲得した裏には、「全日本選手の一般公募」から始まり、自衛隊への体験入隊による「降下訓練」等のメンタルトレーニングを重視したアイデアが効を奏したものと思われる。これからは強化も運営もアイデア勝負である。北京のアジア大会の二の舞とならないよう、全関係者のアイデアを全日本チームに反映させ、是非共来年8月の広島でのアジア選手権を成功させ、男女揃ってバルセロナに出場を実現させたい。どうか各位の温かいご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

ＦＰ⑭
武田　大伸
（日新製鋼）
182cm、76kg、26才

ＦＰ⑬
魚住　和彦
（大崎電気）
188cm、75kg、23才

ＦＰ⑪
斉藤慎太郎
（山形教員）
188cm、78kg、25才

ＦＰ⑩
首藤　信一
（大崎電気）
186cm、85kg、25才

ＦＰ⑨
山村　敏之
（本田技研）
177cm、70kg、26才

ＦＰ⑧
甲斐　章義
（大崎電気）
183cm、71kg、24才

ＦＰ②
武津　優子
（オムロン）
171cm、59kg、23才

ＧＫ⑯
村山みどり
（東女体大）
176cm、67kg、21才

ＧＫ⑫
小松崎浩子
（日体大）
180cm、63kg、21才

ＧＫ①
増見　美果
（大和銀行）
170cm、63kg、23才

女子

ＦＰ⑮
中山　剛
（福岡大）
191cm、75kg、21才

ＦＰ⑧
上村多恵子
（大和銀行）
158cm、58kg、23才

ＦＰ⑦
西村　聖子
（武庫川女大）
174cm、67kg、19才

ＦＰ⑥
松田　史佳
（北国銀行）
161cm、56kg、22才

ＦＰ⑤
松沢　祐子
（シャトレーゼ）
160cm、56kg、23才

ＦＰ④
丸田　紀子
（大和銀行）
171cm、62kg、25才

ＦＰ③
梅原　直美
（大崎電気）
182cm、72kg、25才

ＦＰ⑮
比嘉　晴美
（オムロン）
162cm、51kg、21才

ＦＰ⑭
竹吉　由江
（日体大）
164cm、57kg、20才

ＦＰ⑬
小松　晃子
（シャトレーゼ）
177cm、67kg、21才

ＦＰ⑪
市来　未央
（日立栃木）
159cm、67kg、22才

ＦＰ⑩
小池美由紀
（大和銀行）
164cm、58kg、22才

ＦＰ⑨
眞川亜由美
（大和銀行）
173cm、67kg、23才

第12回東日本学生選手権

東女体大はV5を達成 早大が3年ぶりの栄冠

第12回東日本学生選手権は、福井市で8月19日から23日までの5日間、男子32校、女子16校が参加して熱戦をくり広げた。

男子は早大と国士大の決勝戦となったが、早大が後半立ち上がりに逆転、一気に引き離して3年ぶり2回目の優勝を決めた。

女子は、V5を目ざす東女体大が決勝戦で日体大と大熱戦を展開、延長戦後半で何とかふり切って見事V5を達成した。

男子

▼予選リーグAブロック

早大 27—14 北大
東学大 19—17 北大
早大 24—14 東学大
北大 23—18 東理大
早大 38—16 東理大

〔順位〕①早稲田大②東京学芸大③北海道大④東京理科大

▼同Bブロック

国士大 33—11 東福大
国武大 28—24 東福大
国士大 22—19 国武大
国武大 31—16 富山大
東福大 24—19 富山大
国士大 35—10 富山大

〔順位〕①国士舘大②国際武道大③東北福祉大④富山大

▼同Cブロック

日体大 23—15 明大
明大 31—8 札幌大
日体大 37—5 札幌大
日体大 34—10 東北大
明大 30—13 東北大
東北大 35—12 札幌大

〔順位〕①日本体育大②明治大③東北大④札幌大

▼同Dブロック

法大 16—13 中大
中大 24—15 仙台大
法大 28—9 仙台大
法大 38—14 福井大
中大 32—16 福井大
仙台大 25—14 福井大

〔順位〕①法政大②中央大③仙台大④福井大

▼同Eブロック

筑波大 36—14 新潟大
新潟大 32—20 北海学園大
筑波大 32—14 北海学園大
筑波大 39—9 福島大
新潟大 27—12 福島大
北海学園大 26—19 福島大

〔順位〕①筑波大②新潟大③北海学園大④福島大

▼同Fブロック

函館大 15—12 日大
東大 45—5 信州大
函館大 36—4 信州大
函館大 22—16 慶大
日大 13—6 慶大
慶大 32—16 信州大

〔順位〕①函館大②日本大③慶応大④信州大・

▼同Gブロック

順大 25—18 岩手大
岩手大 22—12 金沢大
順大 36—6 金沢大
岩手大 16—15 横浜商大
順大 31—9 横浜商大
横浜商大 25—11 金沢大

〔順位〕①順天堂大②岩手大③横浜商科大④金沢大

▼同Hブロック

金沢工大 22—6 小樽商大
東海大 15—11 金沢工大
東海大 22—7 小樽商大
金沢工大 29—16 東北学院大
東海大 16—14 東北学院大
東北学院大 17—13 小樽商大

〔順位〕①東海大②金沢工業大③東北学院大④小樽商科大

▼決勝トーナメント1回戦

筑波大 24（10—10、14—9）19 日体大
国士大 27（13—4、14—10）14 東海大
早大 31（18—7、13—12）19 法大
順大 19（10—12、9—3）15 函館大

▼準決勝

国士大 29（14—10、15—11）21 筑波大
早大 30（14—14、16—12）26 順大

▼3位決定戦

筑波大 24（12—10、12—8）18 順大

▼決勝

早大 27（16—7、11—12）19 国士大

女子

▼予選リーグAブロック

日体大 28—12 東海大
東海大 34—7 富山大
日体大 47—11 富山大
日体大 36—6 福島大
東海大 29—22 福島大
福島大 24—12 富山大

〔順位〕①日本体育大②東海大③福島大④富山大

▼同Bブロック

東女体大 37—11 東学大
東女体大 51—1 信州大
東学大 31—9 信州大
東女体大 41—0 北女短大
東学大 36—10 北女短大
信州大 14—13 北女短大

〔順位〕①東京女子体育大②東京学芸大③信州大④北女短大

▼同Cブロック

筑波大 28—5 茨城大
筑波大 33—4 仁愛女短大
茨城大 18—14 仁愛女短大
筑波大 27—7 東福大
東福大 31—9 茨城大
東福大 28—13 仁愛女短大

〔順位〕①筑波大②東北福祉大③茨城大④仁愛女短大

▼同Dブロック

日女体大 25—11 千明短大
日女体大 32—4 金沢大
千明短大 17—8 金沢大
日女体大 33—10 岩手大
千明短大 23—19 岩手大
岩手大 19—18 金沢大

〔順位〕①日本女子体育大②千葉明徳短大③岩手大④金沢大

▼決勝トーナメント1回戦

日体大 32（17—9、15—6）15 日女体大
東女体大 18（9—6、9—9）15 筑波大

▼3位決定戦

筑波大 30（13—14、17—8）22 日女体大

▼決勝

東女体大 26（5—1、0—1、11—11、10—10）23 日体大

第29回（女子20回）西日本学生選手権

大阪体大が男女アベック制覇

第29回（女子20回）西日本学生選手権は、8月18日から22日までの5日間、広島の呉市体育館に男子32校、女子16校が参考して開催された。

男子決勝は、大阪体大と福岡大の顔合せとなったが、大阪体大が延長戦の末1点差で制し、4年ぶり15回目の優勝を飾った。一方女子は、三連覇を狙う武庫川女大と大阪体大の対戦となったが、大阪体大がせり勝ち、3年ぶり7回目の優勝を飾るとともに、見事男女アベック優勝を成し遂げた。

男子

▼予選リーグAブロック

福岡大 24－9 愛知大
福岡大 23－16 近大
福岡大 26－17 山口大
近大 20－14 山口大
近大 14－13 愛知大
山口大 21－20 愛知大
（順位）①福岡大②近畿大③山口大④愛知大

▼同Bブロック

桃山大 39－16 九大
桃山大 20－11 広島大
桃山大 25－12 名大
広島大 20－9 名大
九大 18－16 広島大
名大 16－13 九大
（順位）①桃山大②九州大③名古屋大④広島大

▼同Cブロック

立命大 25－17 佛大
立命大 26－16 松山大
立命大 15－14 中京大
中京大 29－8 松山大
中京大 28－14 佛大
佛大 26－20 松山大
（順位）①立命大②中京大③佛教大④松山大

▼同Dブロック

大経大 27－10 愛媛大
大経大 34－10 関外大
大経大 41－10 九産大
愛媛大 24－15 九産大
愛媛大 17－10 関外大
関外大 22－15 九産大
（順位）①大阪経済大②愛媛大③関西外語大④九州産業大

▼同Eブロック

中部大 33－13 香川大
中部大 25－17 関西大
中部大 27－13 大教大
関西大 20－12 大教大
関西大 24－16 香川大
大教大 16－16 香川大
（順位）①中部大②関西大③大阪教育大④香川大

▼Fブロック

東和大 25－16 愛教大
東和大 24－18 天理大
東和大 26－17 同大
同大 19－17 天理大
同大 29－16 愛教大
天理大 26－17 愛教大
（順位）①東和大②同志社大③天理大④愛知教育大

▼同Gブロック

名城大 34－17 第一工大
名城大 21－14 京教大
名城大 19－12 京産大
京産大 20－17 京教大
京産大 42－19 第一工大
京教大 29－21 第一工大
（順位）①名城大②京都産業大③京都教育大④第一工業大

▼同Hブロック

大体大 32－8 国際大
大体大 40－7 高知大
大体大 25－12 愛学大
愛学大 30－12 高知大
愛学大 26－13 国際大
国際大 26－13 高知大
（順位）①大阪体育大②愛知学院大③沖縄国際大④高知大

▼決勝トーナメント1回戦

福岡大 32（18－8、14－13）21 桃山大
大経大 24（9－4、15－3）7 立命大
中部大 26（14－8、12－12）20 東和大
大体大 30（12－8、18－12）20 名城大

▼準決勝

福岡大 20（9－8、11－11）19 大経大
大体大 25（14－9、11－11）20 中部大

▼3位決定戦

大経大 29（14－8、15－11）19 中部大

▼決勝

大体大 27（11－10、11－12、3－2、2－2）26 福岡大

女子

▼予選リーグaブロック

武女大 35－6 京教大
武女大 29－8 佛大
武女大 38－4 愛教大
佛大 21－14 愛教大
佛大 19－13 京教大
京教大 19－9 愛教大
（順位）①武庫川女子大②佛教大③京都教育大④愛知教育大

▼同bブロック

中女大 26－9 高知大
中女大 26－22 福教大
中女大 24－17 天理大
福教大 20－11 天理大
福教大 27－9 高知大
天理大 22－12 高知大
（順位）①中京女子大②福岡教育大③天理大④高知大

▼同Cブロック

大体大 39－13 九女大
大体大 33－4 広島大
大体大 23－6 中京大
中京大 21－10 広島大
中京大 24－14 九女大
広島大 17－16 九女大
（順位）①大阪体育大②中京大③広島大④九州女子大

▼同dブロック

福岡大 26－15 愛媛大
福岡大 27－18 関外大
福岡大 21－15 大教大
関外大 17－14 大教大
関外大 31－12 愛媛大
大教大 22－14 愛媛大
（順位）①福岡大②関西外語大③大阪教育大④愛媛大

▼決勝トーナメント1回戦

武女大 31（16－5、15－12）17 中女大
大体大 24（15－10、9－8）18 福岡大

▼3位決定戦

中女大 31（17－13、14－14）27 福岡大

▼決勝

大体大 20（10－9、10－9）18 武女大

第1回女子ジュニアアジア選手権大会

韓国が初代チャンピオンに 日本は4位に終る

第1回女子ジュニアアジア選手権は、7月8日から13日まで、中国合肥市で5か国が参加して開催され、リーグ戦の結果、韓国が4戦全勝で初代チャンピオンの座についた。日本はインドを破ったものの、第4位に終った。

成績

		前半	後半		
中国	33			11	インド
韓国	29	14—10	15—11	21	日本
韓国	30			12	台湾
中国	34	15—11	19—11	22	日本
台湾	18	8—7	10—6	13	日本
韓国	40			9	インド
韓国	29			19	中国
台湾	29			15	インド
日本	33	18—10	15—9	19	インド
台湾	23			22	中国

〔鷺位〕①韓国②台湾③中国④日本⑤インド

●報告●

殿水　幸雄

第1回女子ジュニアアジア選手権大会は、来年9月の女子ジュニア世界選手権大会のアジア予選を兼ねて7月8日より中国・安徽省合肥市で中国、韓国、中華台北、インド、日本の5か国の参加により行なわれた。

安徽省合肥は上海から北西へ汽車で約10時間、緑豊かな美しい街で、中国の中でもハンドボールが盛んな都市であり、過去にも国際女子ハンドボール大会などが開催されている。一般市民もハンドボールへの関心は高く、連日5千～7千人の観衆で埋まり、街中にはいたるところに「熱烈歓迎　亜洲女子手球健八」の横断幕があり、受け入れ側の熱意が参加者の我々に肌で感じられた。

この大会は、今後2年に1度に行なわれる予定といわれるが、次回開催地はまだ決まっていないようである。

今大会の大きな特色は、インドチームの参加であろう。今までアジアの大会にはほとんど顔を見せたことのないインドチームが参加したことは、顔、形の似通った中国、韓国、台北、日本にひときわ異彩を放ち、アジア選手権にふさわしい雰囲気を出してくれた。チームは中学生を含む高校生中心のチームだそうだが、実力的には日本のインターハイに出場する高校生のレベルである。しかし、この大会を通じ毎試合ごとに力をつけ向上したことは衆目の一致するところであり、参加の意義は十分あったと思う。今後も参加してくれることを心から願いたい。

さて一方我々日本チームは、本年4月に選ばれた36名の候補選手より選抜した20名の選手から15名の選手に参加してもらった。年齢は17～19歳で、社会人7名、大学生3名、高校生5名（2年生2名）で構成され、この内10名は5月カナダで行われたチャレンジカップ'90に参加し、海外遠征は2回

余談となるが、このチームの中で4名の高校生を参加させていただいた宣真高校（大阪）は、インターハイを間近に控えての長期間の主力選手のチーム離脱は、インターハイ優勝の使命を背負っている中で大変な英断であったことを思うと、校長、監督をはじめとする学校関係者の寛大かつ長期的展望に立った配慮に心から感謝すると同時に現在の各チームのエゴや建て前主義に示唆するところ大であるやに思う。（インターハイ優勝を逸した宣真高校には申し訳ない思いです）。

さて今回の日本チームの特色は平均身長165cmと小柄で、大型大砲がなく、スピードとテクニックのチームといえる。技術的には従来になくレベルが高いが、アジア各国が大型化しパワフルになってきている現状を考えるともっともっとスピードとスタミナがなくては対抗できない。

今大会を通じ特に感じたのは、中国、中華台北の台頭であろう。いずれもナショナル強化につなげる長期展望に立ったチームづくりをしているように思える。

試合結果は、当初の予想通り韓国の優勝に終ったが、ソウル・オリンピック直前の頃と比較して大きくレベルアップしたとは思われない。自信と気力に合わせ試合好

安城学園　23—12　天白

者ぶりが目についた。中国、中華台北の急追とオリンピック優勝で勝ち取った世界一のハンドボールをこれからどう維持、育成し、新しい飛躍をつくり出してゆくのだろうか。大変注目されるところだ。中国は大型選手を揃えており、今後日本にとって大きな壁となろう。

さて、今回のアジア選手権に滞同させていただき、今後の日本ハンドボールの強化について私なりに感じたことを素直にいわせてもらうと、アジア諸国のレベルアップのスピードに対しやや遅れが見え出した日本としては、強化対策として今までのようなバランスのとれたあたりさわりのないような選手を選び、スタッフの決定等々から思い切ったいちかばちかの選択が必要ではないだろうか。それも2〜3年のチームではなく5〜6年先を展望した一貫体制の確立が望まれる。

スタッフの選定も長期展望でジュニアからナショナルへと同一メンバーが引き継いでゆく体制が必要で、ジュニアはジュニアでその時限りでは、いつまでたっても先を見越した対策がとれないのではないだろうか。

特に女子の場合は、スタッフと選手との信頼関係の確立が肝要であり、ドクターを含めてスタッフの固体化が望まれる。

また、女子ジュニアにはナショナルOGクラスのスタッフを入れ、コーチングスタッフとのパイプ役となる人材の導入はいかがなものか。女性という特殊性とジェネレーションギャップを少しでもうめていく必要もあるのではないだろうか。また、身近かな同性の先輩を通じてジュニアの時からナショナルを前提とした精神的な訓練、教育も必要ではないだろうか。

いずれにしても少し長い目で思い切った施策が必要で、八方美人的発想ではもうどうしようもない危機に面しているのではないだろうか。このあたりで何かに賭けてみてはどうだろうか。

同行させていただいたスタッフ、選手のみなさんの大きな飛躍、成長を期待すると同時に、これらを大きく育ててゆく協会、ハンドボール関係者の明解かつ思い切った施策とバックアップをお願いしたい。

第2回男子ジュニアアジア選手権大会

中国が優勝、日本は4位に終る

第2回男子ジュニアアジア選手権大会は、8月8日から18日までイランのテヘランで8か国が参加して開催された。

前回優勝の韓国は、決勝で中国に惜敗、中国が初優勝を飾った。日本は、準決勝で中国に対し大健闘を見せたが、惜しくも延長戦で敗れ、3位決定戦でもシリアに敗れて4位に終った。

成績

▼予選リーグA組

中国 30―26 韓国
中国 24―22 台北
中国 25―18 カタール
韓国 28―22 台北
カタール 34―31 韓国
台北 22―19 カタール

〔順位〕①中国②韓国③台北④カタール

▼予選リーグB組

シリア 26―17 イラン
シリア 39―11 インド
シリア 31（13―13、18―11）24 日本
日本 27（12―14、15―12）26 イラン
日本 27（15―5、12―7）12 インド
イラン 25―17 インド

〔順位〕①シリア②日本③イラン④インド

▼準決勝

中国 32（17―11、10―16、2―1、3―2）30 日本
韓国 36（16―11、20―16）27 シリア

▼7～8位決定戦

カタール 31（15―11、16―6）17 インド

▼5～6位決定戦

台北 25（12―15、13―9）24 イラン

▼3～4決定戦

シリア 33（18―13、15―16）29 日本

▼決勝

中国 18（9―8、9―9）17 韓国

〔順位〕①中国②韓国③シリア④日本⑤中華台北⑥イラン⑦カタール⑧インド

●報告●

監督・早川清孝

イラク軍のクウェート侵攻による中東情勢の変化に不安と期待の交錯する中、第2回男子ジュニアアジア選手権大会は予定通り開催されることとなった。

しかし、大会参加を予定していたクウェートをはじめ、パキスタン、北朝鮮の不参加により、大会日程や試合方法等の変更も余儀なくされ、第1回大会の成績によるA、B2つのグループ分け抽選が行なわれ、A、B両グループによる予選リーグを行ない、上位2チームが準決勝および決勝戦を行なうと決定された。

わが国とは、環境条件において異なることは事前に把握していたが、摂氏40度の暑さには流石に驚かされ、特に水分の補給には大変苦慮致した。

しかも、テヘランの街は標高1300mほどの高原都市であるがために酸素不足等の戸惑いや不安が心配されたが、3日目ぐらいにはだいぶ慣れ、コンディション的にはさほど影響なく試合に臨むことができた。

試合結果については前掲のごとく4位という成績に終わったが、各々の試合で日本選手の技術および戦術が十分通用し、選手は勿論、チームとしましてもそれなりに満足のいく大会であったともいえよう。

今回、優勝致した中国との準決勝戦では、延長を含む70分間におよぶ死闘ともいうべき戦いは、選手共々生涯忘れることのできない一戦だった。

試合終了後、選手全員が悔し涙している姿を見るつけ、心強く、感激させられてしまった。将来、日本のハンドボール界を担うに相応しいチームの団結があり、そして素晴らしい貴重な体験となったことは、今後に大なる期待を抱かせるに十分過ぎるほどの成果といえる。

最後に、今回の大会は国内スケジュールの調整が合わず、選手および所属チームには大変ご迷惑をお掛け致しました。心よりお詫び申し上げます。

今後ともジュニア選手育成のため、ご指導、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

キャプテン・関根和彦

私はジュニアのアジア選手権に出場するのはこれで2回目です。しかも第1回、第2回ともキャプテンを務めさせてもらいました。

2回目ということで前大会よりも肉体的、精神的にも充実してい

たと思います。そのお蔭で試合にオール出場できました。

その中で印象に残っているのが3試合あります。まず開会式後の地元イランとのオープニング試合です。この試合は、点を取っては取られるという一進一退の試合でしたが、残り20秒で日本チームが点を決め、日本チームにとっても自分自身にとっても第1戦目をものにできたということはとても嬉しいことでした。

その後予選リーグで1敗したものの2位で決勝リーグに進出し、世界大会への出場権を賭けての中国戦のことです。この試合はアップの時からチーム一人一人に気合いが入っているのが何となく自分にも感じられました。

試合が始まると一進一退の攻防となったが、前半の途中からミスが出始めて前半を終ってみると6点差になってしまった。

ハーフタイムでみんな気持ちを入れ替えて後半に臨んだが、後半10分で9点まで差を広げられてしまい、自分でもこのままずるずるといってしまうのでは、と思ったが、仲間同士で檄を飛ばし合ったり、励まし合ったりしてチームのムードが良くなり、後半を終ってみると同点となっていました。その時思ったのですが、ここに来てチームのムードが一番良くなり、チームも一つになったという感じがしました。

延長に入ってムードは良かったが得点がなかなか入らず、2点差で敗れてしまいましたが、自分にとって、チーム一人一人にとっていい経験にもなり、いい思い出になったと思います。

最後に、印象に残っているのが3位決定戦です。この対戦相手が予選リーグで一度戦って敗れているシリアでした。手の内はわかっていたのですが、守り切れず、最後までずるずるといってしまいました。しかし、この試合も中国戦のように一時は同点に追いついてチームはムードはとてもよかったです。

この大会を通じてすごくいい経験をしたと思いますし、この経験を生かして、日本に帰ったら自分のハンドボールに磨きをかけていきたいと思います。前大会は7位だったのですが、今大会は上位進出を狙い、それが達成できてすごく嬉しかったです。

戦評

日本 27（12―14、15―12）26 イラン

〔戦評〕オープニングセレモニー直後の第1戦となった地元イランとの試合である。

立ち上がりやや緊張ぎみの両チームであった。先制したのはイラン。日本の反則から1分30秒ペナルティースローを決めた。日本もすぐポイントゲッター松本のミドルシュートで同点としたが、イランもサイドからスカイプレーで2―1とする。両チームとも立ち上がりリズムが合わず、その後5分間得点できず一進一退のゲームとなった。

15分過ぎ、イランはペナルティー、5番SAPKHARVIのミドル、速攻と3連取して8―6とリードして突き放しにかかったが、日本も松本が左45度、センターとミドルで応戦、前半は12―14とイランリードで折り返した。

後半に入り1分、イラン7番のサイドシュートで3点差となるが日本も松本、田代のミドルで再び1点差とし、なかなかスコアが開かない。日本は17分、GK四方の好プレーから吉田へつなぎ速攻で同点に追いつきペースをつかんだ。20分には中野のペナルティーで遂にリードを奪った。しかしイランも踏ん張り最後までゲームはもつれ残り2分、吉田の退場でピンチを迎えた日本がよく耐えて頑張り残り20秒中野のミドルで決勝点をあげイランをふり切った。

イランはサイド、ポストを中心とした攻撃型のチームで、スカイプレーを織りまぜた攻撃もでき、かなりレベルアップされていた。

シリア 31（13―13、18―11）24 日本

〔戦評〕2戦目を迎えた対シリア戦、このゲーム日本にとっては大きなポイントとなる流れが2回あった。

立ち上がりシュートミス、パスミスからリズムが乱れ、4連続ゴールを許してしまったことがまず第一に惜しまれる。しかし日本もよく頑張り、6分過ぎ田代がミドルでゲット、8分、10分、11分と田代、木浪、花岡が相ついでゴール、6―5と追い上げた。その後一進一退のゲーム展開で、前半を13―13で折り返したが、15分過ぎからの連続ゴールで逆転した後、ミスが出て追いつかれたのが今一つ波に乗れなかったところである。

後半に入って、10分過ぎまで18―19とシリア1点リードのシーソーゲームが続いた。その後11分過ぎに日本にとって二つ目の流れを変えるパスミスが続き、16分過ぎまでに19―25と一気に突き放されてしまった。その後、松本、木浪らが頑張ってシュートを決めたが届かず、31―24で完敗した。

シリアは13番FARVATIを中心としたチームで、3番KARIEM、4番MAKHLAS、8番BAGBOGがよくからんで得点まで持っていくチームである。特に13番はワンフェイントでディフェンスをかわした後のクイックのミドルシュートは素晴らしいものを持っていた。

日本 27（15―5、12―7）12 インド

〔戦評〕ベスト4入りを賭けて迎えたインドとの第3戦。この試合も立ち上がりの良くない日本はややもたついたが、松本、中野、吉田で15分までに9得点をあげ完全に日本チームのペースとなった。その後も田中、田代と加点して25分までに14―2と大きくリードしゲームの主導権を握った。両サイドにプレスをかけ中央で勝負をさせるシステムが成功し、GK四方、橋本の好守で失点を最少限に食い止めた。

後半も安定した試合運びで田中、片山が頑張りシュートを決めて加点、27―12で大勝した。大きくリードしたこともあってか、やや大味なゲーム展開となった試合だが、まずはベスト4進出を決めた。

この試合でGK四方が左足ふくらはぎを痛めたことが、今後のゲームにどれくらい影響するか懸念される。インドはまだまだレベル的には低いチームであるが、4番RADHAWAを中心にサイド攻撃を仕掛け、また両45度がステップシュートを狙うチームである。

中国 32（17―11、10―16、2―1、3―2）30 日本

〔戦評〕世界選手権出場を賭けた準決勝の対中国戦を迎え、緊張の中にも何となくゆとりを感じさすムードでゲームに入った。

先制したのは日本。中野のポストシュートが鮮やかに決まり幸先の良いスタートを切ったが、中国

もすぐに14番JIANのサイドシュートで同点とし、11番JUNのミドルで逆転、速攻で3—1とリード。その後中国のエースDONGと日本・松本の打ち合いとなり、前半15分まで8—7と中国の1点リード。ここで中国は日本のエース松本にマンツーマンに出た。その後、地力に勝る中国がロング、ポスト、速攻でリズムをつかみ、残り10分で7得点と完全に中国ペースとなり、17—11と6点差で前半を終了。

後半に入っても中国の勢いは止まらず、日本も中国のエースDONGにマンツーマンをするが、11分過ぎまでにポスト、速攻、ロングと多彩な攻撃で一気に10点差まで広がり、勝負あったかに見えた。しかし、12分過ぎから日本はあきらめないでキャプテン関根を中心に怒涛の攻めが始まる。まず12分、サイドから吉田がとび込みゲット、続いて中野のペナルティー2本と珍田が速攻から持ち込み、また関根がサイドシュートと中国以上の多彩な攻めで20分までに7ゴールをあげ25—20と追い上げた。

あきらめかけていた日本ベンチもコートでプレーする選手、スタンドで声援を続ける選手もこの勢いに徐々に興奮してきた。

日本の攻撃は20分を過ぎても休むことなく勢いが増すばかりである。まず22分木浪のロング、センターから関根がカットイン、吉田のミドル、サイドと4連取で1点差まで追い上げ、競技場内のボルテージは上がるばかり。観客のほとんどは地元イランのハンドボール愛好者で、そのイラン人のほとんどがJapon、Japonの大声援となって場内は騒然となった。

残り3分、筋書きのないドラマはどのように展開していくのか、ベンチもプレーヤーも一つ一つのプレーに一喜一憂である。

27分30秒、日本に痛いファール。中国のペナルティースローとなり26—24と中国が2点リード。日本も負けじとサイドから吉田が絶妙のシュート。28分30秒、中国3番YONGがセンターからミドルを決めここまでかと思われた。そこでレフェリータイム。電先掲示の時計を確認、残り1分40秒で再開。28分55秒、センター田代がワンフェイントからミドルでゲット、再び1点差。Japon、Japonの声援は一段とボルテージを増した。29分、中国のエースDONGがとどめのシュートを放つがゴールをはずし最後のチャンスが日本にめぐって来た。残り20秒、またもサイド吉田がキーパーの脇腹を破りゴールイン。土壇場で同点に追いつき今大会初の延長戦となった。

延長前半は中国が3番YONGのポスト、14番JIANのサイドシュートで2—0とリード、4分、日本・田代がサイドシュートを決め2—1で折り返した。後半30秒、今度は田代がセンターからミドルを決め同点、1分、中国はセンターのブロックプレーから3番YONGが決め再びリード。3分、日本は中野のペナルティースローで同点、4分に中国はポストプレーで日本のファールを誘い、ペナルティースローを決めて遂に息の根を止められた。

途中10点まで引き離されたこのゲーム、後半に入り見違えるほどのプレーぶりで頑張った日本チーム。今一つ精彩を欠いていたキャプテン関根が切り込み隊長となり、サイド吉田の活躍、控えにまわっていた井上、片山、珍田のハッスルプレー、ケガを押して出ているGKの四方、フル出場の中野、ゲームメーカー田代、ロングヒッター木浪、松本、このゲーム控えにまわった田中らの大声援……、とにかく全員が一丸となって戦い抜いた素晴らしいジュニアの歴史に残る一頁を飾った試合であった。

中国チームは今大会屈指のアタッカーDONGを中心にポストプレーヤーYONGが各フローターとうまくからみ、仕掛けてくるチームで、速攻も速く、バランスのとれたチームであった。テクニック的にもレベルアップされている。

シリア 33 （18—13、15—16） 29 日本

〔戦評〕3位決定戦を再びシリアと戦うこととなったこのゲーム、予選リーグの雪辱を期す日本は、立ち上がり1分30秒、吉田がサイドからまわり込み、ミドルシュートを決め先取点を取っていいムードでスタートした。すかさずシリアも4番がペナルティースローを決め同点、その後1点ずつ加えた後、シリアはエース13番FARVATI、8番BAGBOGが軸となり、ミドル、ポストとうまく展開して8分までに6—2とリード、ペースをつかんだ。日本も9分、中野のペナルティースローで得点、吉田の速攻を足掛りに松本のミドルで1点差まで追い上げたが、15分過ぎからはディフェンスが乱れ、4連取され突き放された。前半は18—13とシリアの5点リードで終わった。13番をマークしながら7得点されたのは、このゲーム最大の誤算であった。

後半に入り、日本ベンチは中国戦に見せた粘り強いものを期待した10分過ぎまでは一進一退の展開で5点差がなかなか縮まない。しかし日本は14過ぎハーフ速攻で関根につなぎゲット、続いて松本、吉田が速攻からスカイプレーで合わせてゲット、松本のミドル、吉田のサイドと4連取、1点差まで追い上げた。20分過ぎ松本のペナルティースローで遂に同点、ペースをつかんだかに見えたが、残り10分、中国戦のような気迫が今一つ出ず、押し切られた。

勝つチャンスがあっただけに惜しまれるゲームであった。

各地の記録から…

関東

関東中学埼玉県予選

（7月7、8日／浦和学院）

〈男子〉

▼リーグ戦

蓮田 15－14 中野
喜沢 20－11 上大久保
蓮田 20－10 上大久保
喜沢 17－12 中野
中野 18－17 上大久保
蓮田 15－14 喜沢

〔順位〕①蓮田②喜沢③中野④上大久保

〈女子〉

▼リーグ戦

八潮三 13－11 吉川中央
中野 26－6 八潮
八潮三 28－5 八潮
吉川中央 10－7 中野
吉川中央 24－7 八潮
中野 22－9 八潮三

〔順位〕①中野②吉川中央③八潮三④八潮

東海

愛知県高校選手権

（8月1日～3日／県立国府高校グランドほか）

◎名南支部予選

〈男子〉

▼1回戦

星城 18－11 東郷
日進西 14－7 惟信
昭和 21－16 名古屋大谷
鳴海 20－10 同朋
熱田 19－6 富田
享栄 21－12 名商大付
豊明 25－13 名市工

▼2回戦

星城 15－13 中村
日進西 14－11 天白
名城大付 14－10 南陽
昭和 19－13 日進
鳴海 14－9 緑
松蔭 13－10 熱田
名古屋南 24－13 享栄
瑞陵 21－13 豊明

▼3回戦

日進西 19－18 星城
昭和 19－7 名城大附
鳴海 16－15 松蔭
瑞陵 18－14 名古屋南

▼準決勝

昭和 17－16 日進西
瑞陵 14－7 鳴海

▼決勝

瑞陵 23（15－8、8－8）16 昭和

〈女子〉

▼1回戦

星城 11－11 中川商（3PTCS2）

▼2回戦

昭和 21－13 名女大
若宮商 12－5 日進西
南陽 9－8 星城
天白 15－1 緑
名古屋南 13－8 熱田
惟信 10－10 向陽
松蔭 25－7 昭和
桜台 13－4 中村
富田 7－6 高蔵
若宮商 21－2 豊明

▼3回戦

天白 11－8 南陽
惟信 9－7 名古屋南
桜台 10－9 松蔭
若宮商 15－0 富田

▼準決勝

天白 11－9 惟信
桜台 5－3 若宮商

▼3位決定戦

若宮商 23－8 惟信

▼決勝

天白 13（8－7、5－4）11 桜台

◎尾張支部予選

〈男子〉

■予選リーグ

▼Aブロック

小牧南 22－7 美和
小牧南 23－8 一宮
小牧南 23－2 津島東
美和 15－12 一宮工
美和 20－4 津島東
一宮工 17－5 津島東

▼Bブロック

蟹江 18－12 一宮西
蟹江 21－12 稲沢東
蟹江 26－5 岩倉
一宮西 20－5 稲沢東
一宮西 23－7 岩倉
稲沢東 19－9 岩倉

▼Cブロック

五条 13－7 一宮北
五条 18－8 新川
五条 24－8 弥富
一宮北 16－9 新川
一宮北 25－10 弥富
新川 24－12 弥富

▼Dブロック

佐織工 15－11 一宮
佐織工 22－7 江南
佐織工 16－2 大成
一宮 20－10 江南
一宮 22－0 大成
江南 18－3 大成

▼Eブロック

平和 11－10 犬山南
平和 23－12 西春
平和 25－6 起工
犬山南 26－5 西春
犬山南 29－4 起工
西春 14－9 起工

▼Fブロック

稲沢 18－6 津島
稲沢 28－6 尾北
津島 12－8 尾北

▼Gブロック

尾関 18－11 一宮南
尾関 12－12 一宮興道
一宮南 15－9 一宮興道

▼Hブロック

尾西 12－10 小牧工
尾西 12－7 丹羽
小牧工 17－13 丹羽

■決勝トーナメント

▼1回戦

小牧南 25－7 小牧工
蟹江 28－10 一宮南
五条 15－4 津島
犬山南 14－10 佐織工
一宮 16－8 平和
稲沢 12－7 一宮北
一宮西 19－11 尾関学園
尾西 15－6 美和

▼2回戦

蟹江 16－10 小牧南
五条 15－13 犬山南
稲沢 10－9 一宮
一宮西 15－6 尾西

▼5、6位決定戦

犬山南 19－16 小牧南
尾西 13－10 一宮
犬山南 27－10 尾西

▼準決勝

蟹江 23－13 五条
一宮西 28－8 稲沢

▼決勝

蟹江 24（11－8、13－5）13 一宮西

〈女子〉

■予選リーグ

▼Aブロック

蟹江 21－8 尾北
蟹江 16－3 稲沢東
蟹江 22－8 岩倉
尾北 14－10 稲沢東
尾北 11－6 岩倉
稲沢東 24－3 岩倉

▼Bブロック

西春 14－2 一宮北
西春 15－7 一宮西
西春 25－2 一宮南
一宮北 12－9 一宮西
一宮北 19－10 一宮南
一宮西 8－8 一宮南

▼Cブロック

佐屋 17－8 一宮商
佐屋 32－0 美和
佐屋 22－1 津島
一宮商 19－2 美和
一宮商 25－4 津島
美和 8－3 津島

▼Dブロック

江南 15－5 新川
江南 19－5 小牧南
江南 15－8 津島女
新川 11－7 小牧南
新川 14－5 津島女
小牧南 7－7 津島女

▼Eブロック

尾西 9－4 木曽川
木曽川 12－7 犬山南
木曽川 22－7 五条
犬山南 13－9 尾西
犬山南 21－10 五条
尾西 18－9 五条

▼Fブロック

一宮女 14－4 一宮興道
一宮女 23－4 一宮
一宮女 18－2 平和
一宮興道 8－7 一宮
一宮興道 20－1 平和
一宮 7－7 平和

■決勝トーナメント

▼1回戦

一宮興道 15－8 犬山南
西春 17－4 新川
木曽川 16－5 一宮商
一宮北 15－3 尾西

▼2回戦

蟹江 10－9 一宮興道
佐屋 10－2 西春
木曽川 20－10 江南
一宮女 15－7 一宮北

▼5、6決定戦

西春 14－12 一宮興道
江南 7－2 一宮北
西春 10－8 江南

▼準決勝

佐屋 27－3 蟹江
一宮女 15－6 木曽川

▼決勝

佐屋 17（5－3、12－4）7 一宮女

◎知多支部予選

■1次リーグ

▼Aブロック

半田東 14－9 半田工
半田東 15－2 東浦
半田東 19－5 大府東
半田工 17－7 東浦
半田工 21－13 大府東
東浦 11－4 大府東

▼Bブロック

半田 12－2 大府
半田 24－8 横須賀
半田 21－10 知多
大府 12－10 横須賀
大府 14－12 知多
横須賀 16－13 知多

▼Cブロック

阿久比 14－12 東海南
阿久比 12－12 武豊
阿久比 14－12 知多東
阿久比 21－14 常滑北
東海南 11－7 武豊
東海南 11－2 知多東
東海南 21－9 常滑北
武豊 11－7 知多東
武豊 11－6 常滑北
知多東 12－5 常滑北

■2次リーグ

▼4～6位決定リーグ

大府 18－16 東海南
半田工 8－7 大府
東海南 14－13 半田工

▼1～3位決定リーグ

半田東 13－12 半田
半田東 21－10 阿久比
半田 19－11 阿久比

〈女子〉

■1次リーグ

▼Aブロック

半田 14－10 阿久比
半田 18－8 知多東
半田 22－5 常滑北
半田 [illegible]－7 東海南

阿久比 5－4 知多東
阿久比 14－5 常滑北
阿久比 13－3 東海南
知多東 6－5 常滑北
知多東 6－4 東海南
常滑北 7－5 東海南

▼Bブロック

武豊 10－3 半田東
武豊 12－11 東海商
武豊 22－3 横須賀
武豊 20－2 東浦
半田東 10－6 東海商
半田東 23－3 横須賀
半田東 13－5 東浦
東海商 24－5 横須賀
東海商 12－3 東浦
横須賀 8－7 東浦

▼Cブロック

半田商 23－5 桃陵
半田商 19－5 常滑
半田商 21－1 大府
桃陵 14－11 常滑
桃陵 17－4 大府
常滑 14－13 大府

■2次リーグ

▼4～6位決定戦

阿久比 7－3 半田東
阿久比 15－9 桃陵
半田東 8－5 桃陵

▼1～3位決定リーグ

半田商 22－5 武豊
半田商 19－10 半田
武豊 11－9 半田

◎西三河支部予選

〈男子〉

▼1回戦

豊田 26－10 吉良
安城 8－7 碧南工
岡崎北 23－8 豊田工
安城東 23－13 刈谷工
三河 24－15 西尾
一色 20－6 高浜
碧南 10－9 刈谷北
刈谷 12－6 幸田
三好 15－8 安城南
衣台 23－5 西尾東

▼2回戦

豊田 12－11 知立東
岡崎北 21－8 安城
豊田南 16－9 安城東
豊野 23－9 三河
岡崎 22－10 一色
岡崎東 19－6 碧南
刈谷 17－16 三好
岡崎西 23－3 衣台

▼3回戦

豊田 18－17 岡崎北
豊田南 23－17 豊野
岡崎 26－19 岡崎東
岡崎西 不－明 刈谷

▼5～8位決定リーグ

岡崎北 33－21 豊野
岡崎北 20－20 岡崎東
岡崎北 27－14 刈谷
岡崎 33－19 岡崎東
豊野 27－17 刈谷
岡崎東 24－12 刈谷

▼決勝リーグ

岡崎西 21－9 岡崎
岡崎西 19－14 豊田南
岡崎西 27－7 豊田
岡崎 21－19 豊田南
岡崎 23－17 豊田
豊田南 27－14 豊田

〈女子〉

▼1回戦

豊田 25－5 安城南
豊野 17－0 刈谷北
西尾 20－6 岡崎商
刈谷 13－6 知立東
岩津 16－8 幸田
安城 7－4 吉良
衣台 29－0 碧南
岡崎東 29－9 愛教大附
岡崎北 20－7 西尾東
知立 20－6 豊田東
安城東 10－2 一色

▼2回戦

安城学園 22－5 豊田
豊野 17－9 西尾
岡崎 13－8 刈谷
豊田南 13－5 岩津
三好 22－0 安城
岡崎東 14－9 衣台
知立 11－6 岡崎北
岡崎西 19－2 安城東

▼3回戦

安城学園 26－10 豊野
豊田南 10－9 岡崎
三好 31－9 岡崎東
岡崎西 13－7 知立

▼5～8位決定リーグ

豊野 21－9 岡崎
豊野 7－7 知立
豊野 17－14 岡崎東
岡崎 10－9 知立
岡崎 24－22 岡崎東
知立 17－10 岡崎東

▼決勝リーグ

安城学園 12－8 三好
安城学園 13－7 岡崎西
安城学園 28－3 豊田南
三好 12－8 岡崎西
三好 25－5 豊田南
岡崎西 24－6 豊田南

◎名北支部予選

〈男子〉

▼1回戦

愛知工 16－16（3PTC2） 山田
栄徳 25－4 瀬戸
北 17－14 名古屋西
明和 15－13 春日井工
名大付 34－8 瀬戸北
千種 21－14 菊里
長久手 17－15 瀬戸西
春日丘 11－11 東山工
守山 26－15 春日井東
春日井 21－10 名東
旭野 19－11 東邦

▼2回戦

春日井南 25－8 愛知工
栄徳 17－17（1PTC0） 春日井西
明和 34－8 北
高蔵寺 22－5 名大付
市工芸 18－12 千種
春日丘 28－14 長久手
守山 18－15 春日井
旭丘 15－10 旭野

▼3回戦

春日井南 23－9 栄徳
明和 18－11 高蔵寺
市工芸 26－20 春日丘

守山 18－11 旭丘

▼準決勝

明和 22－19 春日井南

守山 22－20 市工芸

〈女子〉

▼1回戦

北 16－15 長久手

愛知商 10－7 春日井商

守山 28－3 瀬戸北

市工芸 26－11 名大付

春日井東 14－8 椙山

名古屋商 22－7 名東

瀬戸 18－8 名古屋西

春日井南 17－11 市邨

高蔵寺 14－11 千種

淑徳 9－9 西陵商
1PTC0

▼2回戦

春日井 26－6 北

愛知商 26－2 東邦

守山 20－9 市工芸

春日井東 17－11 菊里

春日井西 18－11 名古屋商

春日井南 19－10 瀬戸

高蔵寺 21－8 瀬戸西

旭野 15－9 淑徳

▼3回戦

春日井 16－14 愛知商

春日井東 23－16 守山

春日井西 25－4 春日井南

旭野 24－5 高蔵寺

▼準決勝

春日井 25－13 春日井東

春日井西 19－10 旭野

◎東三河支部予選

〈男子〉

■予選リーグ

▼Aブロック

三谷水産 11－11 蒲郡東

三谷水産 22－12 国府

三谷水産 21－11 豊橋東

蒲郡東 19－11 国府

蒲郡東 12－8 豊橋東

国府 17－11 豊橋東

▼Bブロック

豊川工 17－9 御津

豊川工 16－8 豊丘

豊川工 18－8 新城東

御津 19－10 豊丘

御津 19－8 新城東

豊岡 11－7 新城東

▼Cブロック

桜丘 19－14 豊橋工

桜丘 13－7 蒲郡

桜丘 22－5 豊橋南

豊橋工 23－9 蒲郡

豊橋工 13－5 豊橋南

蒲郡 16－13 豊橋南

▼Dブロック

時習館 11－7 豊橋西

時習館 16－10 豊橋商

豊橋西 17－9 豊橋商

■決勝トーナメント

▼1回戦

三谷水産 18－18 御津

豊橋工 19－10 時習館

桜丘 22－10 豊橋西

蒲郡東 19－13 豊川工

▼準決勝

豊橋工 17－9 三谷水産

桜丘 20－9 蒲郡東

▼3位決定戦

三谷水産 14－13 蒲郡東

▼決勝

桜丘 24（12－6、12－5）11 豊橋工

〈女子〉

▼1回戦

豊橋西 21－15 豊橋南

蒲郡 14－9 豊丘

豊橋商 32－2 宝陵

国府 13－5 時習館

▼準決勝

豊橋西 23－8 蒲郡

豊橋商 17－13 国府

▼3位決定戦

国府 11－5 蒲郡

▼決勝

豊橋西 20（11－5、9－2）7 豊橋商

◎県大会

〈男子〉

▼1回戦

岡崎西 34－6 阿久比

桜丘 15－12 岡崎

豊田南 21－17 昭和

東海 24－9 大府

犬山南 17－13 半田

蟹江 21－18 市工芸

岡崎北 19－13 三谷水産

愛知 16－8 一宮西

中京 28－7 稲沢

名南工 32－18 尾西

守山 22－17 瑞陵

蒲郡東 19－14 豊田

春日井南 30－6 半田東

明和 17－15 五条

向陽 21－15 豊橋工

桜台 26－5 豊野

▼2回戦

桜丘 15－13 岡崎西

東海 22－17 豊田南

蟹江 24－14 犬山南

愛知 21－2 岡崎北

中京 19－18 名南工

守山 25－16 蒲郡東

春日井南 17－9 明和

桜台 30－18 向陽

▼3回戦

東海 13－13 桜丘
4PTC3

愛知 24－15 蟹江

中京 24－23 守山

桜台 19－9 春日井南

▼準決勝

愛知 25－12 東海

桜台 20－8 中京

▼決勝

桜台 23（11－7、12－5）12 愛知

※桜台は2年連続12回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦

東海女 23－16 岡崎

岡崎西 18－7 春日井

一宮女 26－3 武豊

緑丘商 21－13 豊野

桜台 15－8 江南

旭野 11－8 木曽川

三好 29－5 豊橋商

佐屋 23－5 阿久比

半田商 26―13 蟹江
中京女 21―7 国府
若宮商 23―12 半田
春日井西 23―10 東郷
西春 25―7 蒲郡
豊橋西 24―13 春日井東
豊田南 11―5 鳴海

▼2回戦

東海女 17―4 岡崎西
緑丘商 18―14 一宮女
桜台 11―6 旭野
佐屋 15―9 三好
安城学園 22―20 半田商
中京女 22―8 若宮商
春日井西 23―11 西春
豊橋西 16―8 豊田南

▼3回戦

東海女 24―14 緑丘商
佐屋 19―7 桜台
安城学園 24―12 中京女
春日井西 30―13 豊橋西

▼準決勝

東海女 26―16 佐屋
春日井西 18―13 安城学園

▼決勝

東海女 27（14―6, 13―3）9 春日井西

※東海女は初優勝。

北信越

国体新潟県予選

（7月22日／柏崎工業高校）

〈少年男子〉

▼1回戦

長岡高専 21―18 柏崎工高
三条工高 28―8 長岡大手高

▼準決勝

柏崎高 25―10 長岡高専
新潟江南高 24―10 三条工高

▼決勝

柏崎高 17（9―3, 8―10）13 新潟江南高

〈成年男子1部〉

▼決勝

新潟選抜 38（13―11, 25―10）21 新潟教員

〈成年男子2部〉

全新潟 32（15―3, 17―4）7 長岡高専OB

九州

第28回（女子第15回）全九州学生選手権

（日程場所不明）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

福岡大 47―3 日本文理大
福岡大 35―12 熊本大
熊本大 26―10 日本文理大
九州産業大 32―16 西日本工大
九州産業大 34―25 大分大
九州産業大 21―16 西南大
大分大 35―22 西日本工大
西南大 31―12 西日本工大
西南大 26―21 大分大

○Cブロック

九州大 26―14 鹿経済大
九州大 25―21 久留米工大
九州大 21―20 宮崎大
宮崎大 40―17 鹿経済大
宮崎大 26―21 久留米工大
久留米工大 30―15 鹿経済大

○Dブロック

長崎大 23―10 鹿児島大
第一工業大 24―17 鹿児島大
鹿児島大 21―16 福岡工大
第一工業大 34―28 長崎大
長崎大 27―25 福岡工大
第一工業大 25―19 福岡工大

○Eブロック

福岡教育大 25―18 琉球大
沖縄国際大 22―19 福岡教育大
福岡教育大 48―12 九州共立大
沖縄国際大 26―12 琉球大
琉球大 25―13 九州共立大
沖縄国際大 36―22 九州共立大

○Fブロック

東和大 42―15 熊本商大
東和大 37―14 長崎総科大
東和大 41―10 熊本工大
長崎総科大 30―24 熊本商大
熊本工大 17―15 熊本商大
長崎総科大 28―22 熊本工大

▼準決勝リーグ

▼Xゾーン

福岡大 43―10 九州産大
福岡大 33―7 九州大
九州産大 26―22 九州大

▼Yゾーン

沖縄国際大 30―10 第一工業大
東和大 34―18 第一工業大
東和大 29―13 沖縄国際大

▼5位決定戦

九州大 [illegible]―14 第一工業大

▼3位決定戦

九州産大 24―20 沖縄国際大

▼決勝

福岡大 32（17―10, 15―12）22 東和大

〈女子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

福岡大 38―14 沖縄国際大
福岡大 25―16 琉球大
福岡大 44―5 宮崎大
琉球大 14―6 沖縄国際大
沖縄国際大 37―7 宮崎大
琉球大 30―6 宮崎大

○Bブロック

福岡教育大 29―16 熊本短大
福岡教育大 29―18 九州女大
福岡教育大 34―10 東海福短大
福岡教育大 35―10 長崎大
九州女大 20―19 熊本短大
熊本短大 22―10 東海福短大
熊本短大 26―9 長崎大
九州女大 36―13 東海福短大
九州女大 38―6 長崎大
長崎大 27―16 東海福短大

▼決勝リーグ

福岡大 25―16 琉球大
福岡大 22―16 福岡教育大
福岡大 30―13 九州女大
福岡教育大 18―11 琉球大
九州女大 17―13 琉球大
福岡教育大 29―18 九州女大

〔順位〕①福岡大②福岡教育大③九州女大④琉球大

機関誌ハンドボール「300号」のあゆみ④

▼第201号（1981年10月）

・韓国で見たハンドボール／新井節男
・第10回世界男子選手権アジア予選
・男子世界選手権大会について／境井秀三
・第10回全国中学校大会
・日本リーグに初の外人選手
・東日本学生選手権大会
・強化部会報告
・各地学生秋季リーグ戦
・ゲーム中のボールスピードについて
・IHF審判講習会報告(3)

▼第202号（1981年11月）

・小学生にハンドボールを
・第36回びわこ国体／広島が9年ぶり4回目の優勝
・全日本学生選手権大会
・第2回九州小学生大会
・第13回全日本自衛隊選手権大会
・各地学生秋季リーグ戦
・全日本女子6年ぶりのヨーロッパ遠征

▼第203号（1981年12月）

・第33回全日本総合選手権大会—湧水薬品、ジャスコが昨年に続き〝王者〟の座に—
・第6回日本リーグ後期
・海外トピックス
・TiB48が関東地区で交歓試合
・プレスルーム
・日本のハンドボールゲームの数量的分析①
・昭和55年度トレーニング・ドクター群報告

▼第204号（1982年2月）

・第3回世界ジュニア選手権／日本、残念ながら16位に終る
・第7回フランス男子国際／世界選手権に向けてまずまずの手応え
・日本のハンドボールゲームの数量的分析②
・昭和55年度トレーニング・ドクター群報告②

▼第205号（1982年3月）

・世界選手権代表決まる
・全日本男子ヨーロッパ転戦報告
・第3回世界男子ジュニア選手権をふり返って／木野実
・第3回世界女子ジュニア選手権
・二巡目の国体を考える／安藤純光
・第1回日本リーグオールスターゲーム
・コーチ中央研修会
・日本のハンドボールゲームの数量的分析③
・昭和55年度トレーニング・ドクター群報告③

▼第206号（1982年4月）

・第5回全国高校選抜大会
・第10回日韓女子社会人交流／日本、全敗を喫す
・日本ハンドボール協会公認指導者資格別登録現況
・都道府県公認スポーツ指導者登録現況

▼第207号（1982年5月）

・第10回世界男子選手権詳報
・全日本女子ヨーロッパ遠征
・トピックス（立石電機にユーゴ2選手加入）
・第23回全日本女子実業団選手権
・全日本女子監督に鈴木氏
・昭和57年度事業計画
・昭和56年度補正予算
・昭和57年度予算

▼第208号（1982年6月）

・第8回世界女子選手権アジア予選
・個人の逞しさ不足を反省／竹野奉昭
・日中交流／選手層に厚味を増した中国
・関東、関西学生が西ドイツ遠征
・第23回全日本男子実業団選手権
・スカイプレーを考える／川上整司
・海外トピックス

▼第209号（1982年7月）

・第7回日本リーグ前期
・関東学生春季リーグ戦
・ミニハンドボールについて／河村レイコ／水上一
・昭和57年度補正予算
・昭和57年度特別会計予算

▼第210号（1982年8月）

・第33回全日本高校選手権大会〔総評〕 清水正
・L・プラハ国際招待
・昭和57年度男子ナショナルチーム
・昭和57年度女子ナショナルチーム
・第9回全国教員養成大学研修会

▼第211号（1982年9月）

・第11回全国中学校大会を見て／安藤純光／川上整司
・ニューカレドニア遠征に同行しての所感／内海倫
・海外研修を終えて／樫塚正一
・競技規則について／斎藤和夫
・東日本学生選手権
・西ドイツ女子チーム来日
・西日本学生選手権
・全国クラブ選手権

▼第212号（1982年10月）

・くにびき国体をふり返って／藤原忠男
・くにびき国体熱戦譜
・くにびき国体総評／北川勇喜
・第19回IHF総会報告／荒川清美
・第9回アジア大会日本代表メンバー決まる
・第7回日本リーグ後期展望／安藤純光

▼第213号（1982年11月）

・アジア競技大会初参加に想う／荒川清美
・第34回全日本総合選手権大会組合せ決まる
・第7回日本リーグ総評／安藤純光
・第7回日本リーグ後期
・第14回全日本自衛隊選手権

・昭和57年度関東学生秋季リーグ戦
・第19回ＩＨＦ総会報告
・ユーゴスラビアに留学して／島村護

▼第214号（1982年12月）

・アジア大会
　―決勝で中国に苦敗
　―参加選手の声
・第25回全日本学生選手権大会
・第10回日韓ジュニア交流
・各地学生リーグ戦

▼第215号（1983年2月）

・第34回全日本総合選手権大会総評／安藤純光
・第2回日本リーグオールスター戦
・第9回アジア大会を戦い終えて／竹野奉昭
・ＡＨＦ総会報告
・日体大ルーマニア遠征記
・第8回世界女子選手権
・新しい年の財政・財源について／清水正
・協会告知板

▼第216号（1983年3月）

・昭和57年度全国高校選抜大会組合せ決まる
・男子出場校メンバー
・女子出場校メンバー
・特別原稿／西田啓
・第14回全日本実業団男子トーナメント大会
・第1回顧問会議開か[illegible]
・全日本大会の審判を顧りみて
・第9回アジア大会に参加して／光島磯雄・佐分正典
・神奈川県高校におけるハンドボール実施状況／設楽孝治

▼第217号（1983年4月）

・ごあいさつ
　会　長　斉藤英四郎
　専務理事　大野　金一
・新執行部決まる
・第6回全国高校選抜大会
・公認コーチ養成講習会
・強化部総会議事録
・小学生のハンドボール指導における一考察／角紘昭
・昭和58年度事業計画予定表

▼第218号（1983年5月）

・ごあいさつ
　副会長　荒川清美
　副会長　武田喜三
　強化担当理事　渡辺慶寿
・男、女監督決まる
　特別座談会
　関東ジュニア西独研修遠征
　関東、関西学生西独遠征
・アジア協会理事会報告
・西ドイツ協会機関誌よりのレポート
・海外交流ニュース
・第8回日本リーグ日程表

▼第219号（1983年6月）

・フランスナショナルチーム来日決定
・男・女監督、その決意を語る
・第24回全日本実業団選手権
・第8回日本リーグの話題を探る
・関東ジュニア研修訪独旅行を終えて／小西、原ほか
・海外トピックス
・西ドイツ協会機関誌よりのレポート
・関東学生春季リーグ戦
・私の新著紹介／新井節男

▼第220号（1983年7月）

・ロサンゼルス・オリンピックアジア予選、日本開催が決定
・フランスナショナルチーム紹介
・昭和58年度全国高校総体組合せ
・海外トピックス
・第1回国際審判員研修会報告
・各地学生リーグ戦

▼第221号（1983年8月）

・第8回日本リーグ前期
・インテラムニアカップ
　全日本女子ジュニア初優勝
・情報化社会に対応しよう／小西博喜
・第4回全国クラブ選手権
・拝島中学10年間のあゆみ／青木徹
・海外トピックス
・第10回全日本自衛隊選手権大会

▼第222号（1983年9月）

・皇太子殿下、皇太子妃殿下をお迎えして／清水正
・高校総体[illegible]／中西敬一
・高校総体戦いの跡
・フランスチームを迎えて
・日韓ジュニア交流
・第4回世界選手権ジュニア男子アジア地区予選を省みて／早川清孝
・特別グラフ
　愛知インターハイ
　フランス対全日本

▼第223号（1983年10月）

・ロサンゼルス・オリンピックアジア予選組合せ決まる
・アジア予選のみどころ
・第12回全国中学校選抜大会
　中学大会雑感
　特別手記
　安慶田中学　比嘉和直
　寺井中学　井川邦彦
・第5回東日本学生選手権
・第22回西日本学生選手権
・第26回全日本教職員選手権
・素晴らしかったイタリア遠征／渡辺慶寿

▼第224号（1983年11月）

・第38回あかぎ国体総評
・第3回アジア選手権大会詳報／渡辺慶寿
・第8回日本リーグ女子
・関東学生秋季リーグ戦

▼第225号（1983年12月）

・ロス・オリンピック、男子出場権獲得
・アジア地区予選を終えて

- アジア地区予選戦いの跡
- 全日本学生選手権大会総評
- 全日本学生選手権大会
- IHFシンポジューム報告
- 第10回全国教員養成大学研修会
- ロスへみんなで応援に行こう

▼第226号（1984年2月）

- 第35回全日本総合選手権大会　湧永、堂々の5連勝
- 昭和58年度公認ハンドボールコーチ研修会報告
- 成果あがった高校生（男子）ハンドボール研修会
- 審判部合同委員会議事録
- IHFシンポジューム報告（第2回）

▼第227号（1984年3月）

- 選抜大会で高校スポーツ界の春開く
- 全国高校選抜大会組合せ
- 第8回日本リーグ男子湧永、完全優勝で四冠達成
- 全日本総合選手権に優勝して
- 第15回全日本実業団男子トーナメント大会
- 昭和58年度公認ハンドボールコーチ研修会報告／イオン・クストンのハンドボール
- 昭和59年度日本体育協会公認ハンドボールコーチ養成専門教科講習会実施要項

▼第228号（1984年4月）

- 世界の雄・ユーゴが来日
- 関東・関西学生選抜ヨーロッパ遠征
- 科学研究委員会報告(1)
- IHFシンポジューム報告(3)
- 実戦から見た技術講座
- 海外トピックス
- 4月～6月のイベント

▼第229号（1984年5月）

- さらに飛躍の年度に／大野金一
- 第7回全国高校選抜大会総評／金原至
- 第7回全国高校選抜大会全記録
- イオン、クンストのハンドボール
- 5～7月のイベント

▼第230号（1984年6月）

- ロサンゼルス・オリンピック出場選手決まる
- ロサンゼルス・オリンピック派遣選手団メンバー
- ジャパンカップ'84で全日本男子世界のユーゴに善戦
- 男子ナショナルチーム欧州遠征報告
- 海外遠征記録
- イオン・クンストのハンドボール(4)
- IHFシンポジューム報告(4)
- 第9回日本リーグ日程表

▼第231号（1984年7月）

- ロサンゼルス・オリンピック組合わせ決まる
- 第34回全日本高校選[illegible]権大会組合わせ
- 第25回全日本実業団選手権大会
- 関東、関西高校選抜西ドイツ遠征印象記
- 科学研究委員会報告PARTⅡ
- 大学春季リーグ戦

▼第232号（1984年8月）

- 第9回日本リーグ前期／立石、大崎全勝でUターン
- イオン・クンストのハンドボール
- イワン・スノイのハンドボール
- IHFシンポジウム
- 国際審判員講習会報告

▼第233号（1984年9月）

- ロサンゼルスオリンピックを終えて／大野金一
- あらゆる重圧を越えて善戦した／渡辺慶寿
- 日本チーム全戦績
- オリンピック全試合成績・勝敗表・日本選手全成績
- 第35回インターハイ詳報
  浦和実感激の初優勝〈男子〉
  熊本市立24年ぶりの復活

▼第234号（1984年10月）

- 全日本男子チーム新監督・野田清氏に決定
- 第13回全国中学校大会戦いの跡
- 優勝・感激手記　神奈川県岩崎中学／山口和男
- 第11回全国教育養成大学研修会報告
- 第20回全日本教職員選手権
- 第4回全国クラブ選手権
- 東日本学生選手権
- 西日本学生選手権
- イオン・クンストのハンドボール（第6報）

▼第235号（1984年11月）

- 第9回日本リーグ
- インターハイ／全国制覇を果たした喜び
  熊本市立／泉浤
  浦和実／上田克彦
- 第23回オリンピック競技大会報告書／市原則之
- 11月～1月のイベント

▼第236号（1984年12月）

- 第9回日本リーグ最終結果
- 第39回国民体育大会
- イオン・クンストのハンドボール（最終回）
- ロサンゼルス五輪レフェリー観察の報告
- 各地学生秋季リーグ戦

▼第237号（1985年2月）

- 第36回全日本総合選手権
- 第27回（女子20回）全日本学生選手権大会
- 第4回日本リーグオールスター戦
- 〈技術講座〉レフェリー技術についての反省と回顧
- 三国対抗・高校生国際親善大会
- 各地学生リ[illegible]グ戦〈2部以下〉

'91広島

アジアハンドボール選手権大会

を成功させよう!!

—第6回男子・第3回女子アジアハンドボール選手権大会

兼バルセロナオリンピックアジア地区予選—

〔日程〕　一九九一年八月二十二日㈭〜九月一日㈰

〔大会会場〕　広島サンプラザ・広島市東区スポーツセンター

㈶日本ハンドボール協会

広島県ハンドボール協会

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三〇三号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可 平成二年十月二十六日印刷 平成二年十一月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 (481) 二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円
(年間購読料 二千三百円)